

市町村名	与那国町
------	------

平成29年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート

事業名	離島教育環境改善事業	事業類型	<input type="checkbox"/>	産業振興
			<input checked="" type="checkbox"/>	定住促進
			<input type="checkbox"/>	その他

担当部課名	教育委員会 教育課	事業実施(予定)年度	平成29～31年度
-------	-----------	------------	-----------

事業内容  
 離島の教育環境課題の解決を図るため  
 ・高校進学による人口流出の対策として、ICTを活用した遠隔での高等教育の可能性を探る実証実験を行う。  
 ・小規模学校、過小規模校の教育上の課題を克服するため、島内の2つの中学校同士をICTで結び、合同学習を実施する。

先導性に係る取組	<input type="checkbox"/> 自立性	<input type="checkbox"/> 政策間連携	<input type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成
	<input checked="" type="checkbox"/> 官民協働	<input type="checkbox"/> 事業推進主体の形成	<input type="checkbox"/> その他

効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(34年度)
--------	--

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ( )
------	--

		29年度	30年度	31年度		
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	18,683			
		(b) 予算現額	18,683			
		(c) 増減額 (b-a)	-			
		(d) 繰越額	-			
		A. 計 (b+d)	18,683			
		B. 執行済額	17,943			
		うち補助金充当額	14,355			
		次年度繰越額	-			
		執行率 (%) (B/A)	96.0%			
		予算の状況の説明	当初の計画通り実証実験及び中学校間の合同授業を行い、事業は適正に執行できた。不用額の740千円については協力参加高校生の減、委託先の必要経費減によるものである。			

活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)	達成状況			
		29年度	30年度	31年度	
	実証実験授業時間数 (高校生対象)	目標	9時間		
		実績	9時間		
	合同授業時間数 (中学校対象)	目標	4時間		
		実績	6時間		
住民参加型ワークショップ開催	目標	1回			
	実績	1回			
達成状況説明	○実証実験では夏休みに島に帰省している高校生9名の協力を得て1日3時間、3日間の模擬授業を行った、その後実験結果を検証する検証委員会を2回開催し報告書を作成した。 ○学校間では本町の2つの中学校をICTでつないでの遠隔合同授業を4回開催した他、県外の学校との交流授業を2回開催した為当初計画より達成率が50%増加した。 ○与那国方言をテーマに住民参加型ワークショップを開催し、住民20人の参加があった。				

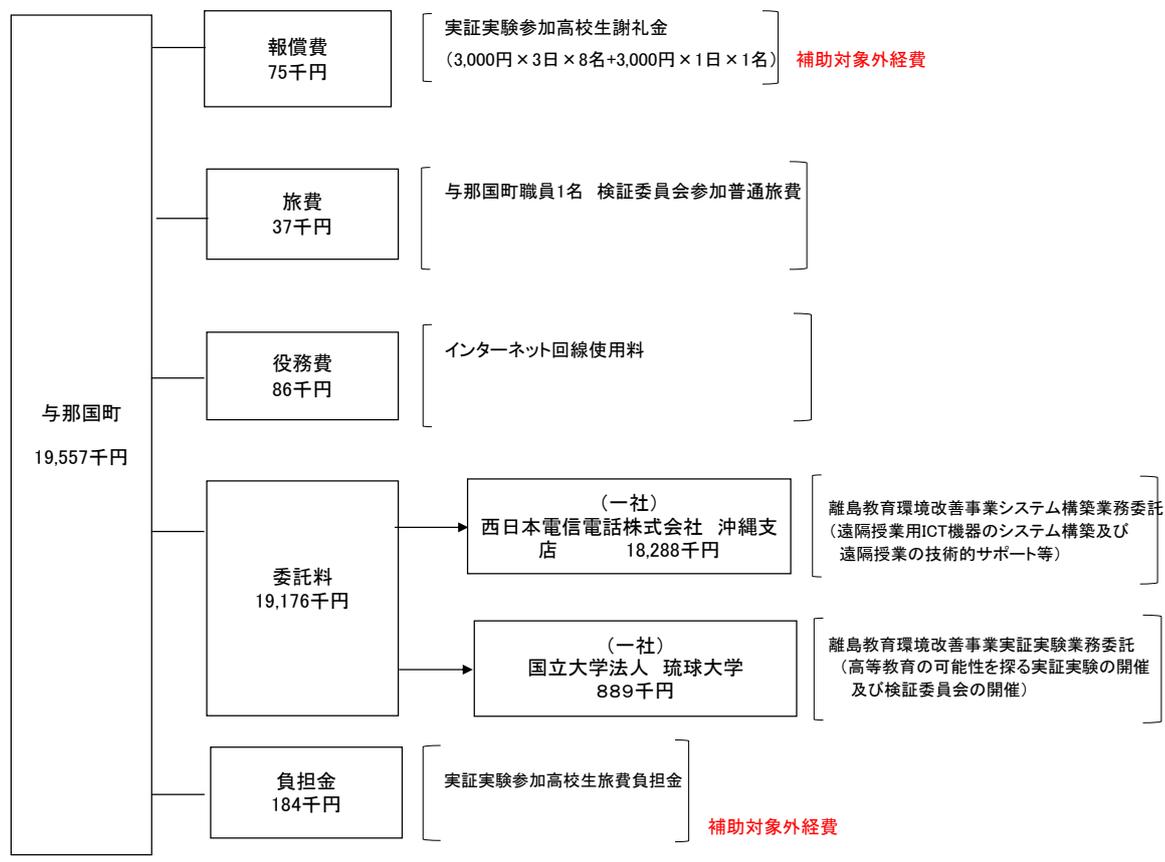
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値 (28年度)	29年度	30年度	31年度	目標値 (34年度)
			高校設置へ賛同する割合 (アンケート)	目標		-	-
	合同授業による学力の向上 (基準年31年度)	目標		-	-		10%以上
		実績		-	-		
(参考指標) 遠隔合同授業を実施した教員にアンケートを行い、複式学級・小規模学級の課題を解消した授業が展開できたと考える割合	目標			-	-	80%以上	
	実績			-	-		
(参考指標) 遠隔合同授業を受けた児童生徒にアンケートを行い、普段の授業より多様な意見に触れ、考えを深められたと考える割合	目標			-	-	80%以上	
	実績			-	-		
進捗状況説明	○事業実施期間の最終年度となる31年度において、教員や児童生徒にアンケートを行い、遠隔授業の実施により小規模学校の課題が解消されたかを検証する。						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	○実証実験の授業を受けてもらう高校生の確保が難航した。当初は与那国町側と沖縄本島側の2地点で高校生が合同で授業を受ける計画であったが、夏休みの帰省で与那国町側の生徒確保はできたが沖縄本島側の高校生の確保ができなかった。	○実証実験は、2地点間で高校生が合同で授業を受けることで、ICTを活用した高等教育の可能性を検討するものであるため、与那国町側のみでなく、沖縄本島側でも受講する協力者の確保が必要である。 ○遠隔授業を普通の授業環境に近づけるための方法の検証が必要
	○普通授業の環境に遠隔授業を近づけるにあたり、授業協力者の生徒、教師に授業後に実施したアンケートにおいて次のような意見があった。 ・カメラの位置の関係で黒板が見えにくい ・生徒の手元が見えないため机間指導ができず授業進行のタイミングが取りづらい	

今後の取り組み方針
○実証実験の協力者を確保するために早めの町内での広報活動を行う。また、沖縄本島側でも大学に協力いただき、本町出身者に限らず協力者の確保を行う。
○遠隔を普通授業環境に近づけるため資料共有ソフトや学習支援ソフトを活用し黒板の代替えや机間指導を遠隔でも行える方法を考案する。

**資金の流れ**  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	補助対象事業費	補助金充当額	市町村負担金	補助対象外経費
19,557	17,943	14,355	3,589	1,614



資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託先は、本授業で使用する遠隔システムを構築できる唯一の会社及び沖縄県内で教育学部を有し教育研究のできる唯一の機関であり妥当と考える。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	不用額は事業費の5%以内であり、適正な規模であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	-
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用・用途に関しては、予算要求時に財政担当の査定を受けており、かつ、支出時においても確認を行っているため適正である。